

第 34 期第 7 回研究会「テレビ報道番組の政党イメージ・党首好感度に与える影響」（ジャーナリズム研究・教育部会企画）のご案内

日 時：2015 年 1 月 17 日（土）14：00～17：00

場 所：上智大学 四ツ谷キャンパス 12 号館 402

第 1 部 研究報告

(1)テレビ露出量の推定方法について 佐藤友紀（日本民間放送連盟）

(2)接触量と好感度／非好感度の関係 渡邊久哲（上智大学）

第 2 部 パネルディスカッション

パネリスト：桶田 敦（TBS テレビ）

峰久和哲（朝日新聞）

渡邊久哲（上智大学）

モデレーター：音 好宏（上智大学）

テレビの報道番組は、有権者に対してどのような影響を与えるのであろうか。とりわけ選挙報道期間中における報道は、各政党や党首に対して有権者が抱くイメージに少なからぬ影響を与えるのではないか。本研究では、2013 年 7 月参院選の選挙期間における地上波テレビの報道番組の報道内容が有権者にどのような影響を与えたかについて、番組内容分析と有権者意識調査を用いて明らかにした。

本研究ではまず選挙期間中（投票日の 3 か月前～投票日）の関東地区で放送された地上波テレビの報道番組のテレビメタデータ（エム・データ社提供）を分析することによって、その期間において主要報道番組それぞれごとに各政党（10 党）・党首（日本維新の会が共同党首のため 11 名）が露出した時間量（秒数）を推定した。次に選挙直前に（2013 年 7 月 16～17 日）に関東在住有権者 1119 名を対象にした意識調査をウェブ法で行い、ふだんの報道番組視聴状況、各政党に対して抱く好感度、各党首に対して抱く好感度などを調べた。分析では、①視聴報道番組と政党イメージの関係、②視聴報道番組と党首への好感度の関係、③各政党の番組露出への接触度と政党イメージの関係、④各党首の番組露出への接触度と党首好感度の関係の 4 点について分析を行い、以下の知見を得ることができた。

1. 報道番組の視聴状況（どの報道番組をみるか）と各政党好感度および党首好感度の間には、いくつか有意な関係性のみられるものがあつたものの、少数にとどまる。(①②)
2. 政党の総露出時間量（番組合計の露出時間量）を 1 日あたり平均露出分数に換算すると、降順に、自民党 54 分、民主党 52 分、日本維新の会 49 分、みんなの党 31 分、公明党 30 分、日本共産党 25 分、社民党 20 分、生活の党 20 分、みどりの風 17 分、新党改革 2 分であった。
3. 露出の多い自民、民主、維新、みんなの 4 党については、有権者の政党露出接触程度と政党好感度に有意な関係が見られ、接触量が多い有権者ほど「イメージなし」が少なく、「イメージよい」が多い傾向が見られた。(③)
4. 党首の総露出時間のバラつきは政党間のバラつきよりも大きく、1 日あたり平均露出分

数は、降順に、安倍晋三 102 分、橋下徹 35 分、海江田万里 18 分、渡辺喜美 16 分、山口那津夫 13 分、福島瑞穂 12 分、石原慎太郎 11 分、志位和夫 10 分、谷岡郁子 9 分、小沢一郎 8 分、舛添要一 1 分であった。

5. 安倍、橋下、渡辺、石原、小沢、舛添の 6 名においては、番組露出への接触程度と党首への好感度の関係性が有意であった。このうち大半は接触量の多い有権者ほど、「わからない」が少なく「好感を持つ」が多い。ただし「好感を持たない」は不変であった。(④)

今回の研究会においては、テレビメタデータから各政党・党首の番組露出量（秒数）を推定する方法、有権者意識調査の概要、政党・党首の番組露出に対する有権者の接触度を推定する方法等についての研究発表を行った上で、上記の知見を巡ってパネルディスカッションを行い、さらにはフロアの参加者との議論も深めたい。

なお、本研究会は、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所との共催で開催する。また、本研究プロジェクトは、放送文化基金の研究助成のもとに実施されたものである。